

## 令和4年度第1回府中市市史編さん審議会

- 1 会議の名称 令和4年度第1回府中市市史編さん審議会
- 2 開催日時 令和4年7月21日(金) 午前10時00分～10時40分
- 3 開催場所 ふるさと府中歴史館 3階市史編さん資料室
- 4 出席者 坂詰秀一委員、猿渡昌盛委員、入江宣子委員、小林勤委員、今野耕作委員、堀江元委員、川口克巳委員、野口武悟委員 以上8名  
事務局出席者 佐藤部長、英主幹、熊坂主査、中川理事、小島事務
- 5 会議の公開・非公開 公開 傍聴者なし
- 6 議事内容 以下のとおり

**事務局** 定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第1回府中市市史編さん委員会を開会いたします。

**事務局** 本日は、大変お忙しい中、委員の皆様におかれましては、市史編さん審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、議事に入ります前に、文化スポーツ部長より、ご挨拶申しあげます。

### 文化スポーツ部長挨拶

**部長** 4月1日付で文化スポーツ部長を拝命いたしました、佐藤と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

審議会の日程によりまして、皆様にご挨拶が遅れましたこと、申し訳ありませんでした。また、審議会委員の皆様におかれましては、日頃より、市政の各般にわたり、ご理解とご協力を賜っておりますこと、この場をお借りいたしまして御礼申しあげます。

さて、平成26年度の市制60周年を機に立ち上げました市史編さん事業も、おかげさまで、事業完了年度である令和6年度・市制70周年に向けて順調に進捗しております。後ほど、昨年度から今年度にかけての状況は、詳しくご報告させていただきますが、今年度から来年度にかけて、通史編の刊行を行ってまいります。

市史編さん事業もいよいよ佳境を迎えることとなります。コロナ禍もまだまだ先行き不透明なところもあり、ご不便をお掛けいたしますが、委員の皆様におかれましては、より一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願ひ申しあげましてご挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

**事務局** 続きまして、4月1日付職員の定期人事異動にともなう、市史編さん担当職員の異動について報告いたします。

今年度は、資料2に記載のとおり、編さん担当11名の職員体制で、原始古代、中世、近世、近現代、自然、民俗、考古美術工芸の7分野の専門部会と協働して、資料収集・調査・研究・原稿作成・編集・刊行物発行に取り組んでおります。

それでは、本日の会議の議題に入りますので、会長に進行をお願いいたします。どうぞ、よろしくをお願いいたします。

**会長** おはようございます。お暑いところ、お集まりいただきありがとうございます。それでは、議題に入る前に、事務局から、委員の出席状況について報告してください。

**事務局** A委員、B委員から本日欠席とのご連絡があり、10名の委員のうち、8名のご出席をいただいております。

したがって、「府中市市史編さん審議会規則」の規定により、本日の会議は有効に成立しておりますことをご報告いたします。

**会長** 続いて傍聴人について、事務局から報告してください。

**事務局** 今回の審議会開催にあたりまして、市の広報（7月11日号）及びホームページに、傍聴希望者の募集記事を掲載いたしました。その結果、1名の傍聴希望者がありましたが、本日お見えになっておりませんので、このまま進行させていただきます。

**会長** 1名の傍聴希望者があったそうですが、まだいらっしゃらないようです。時間も来ておりますので、始めさせていただきます。

それでは、議事に入ります。最初に、配布資料について、事務局から確認してください。

**事務局** お手元に配布の資料をご覧ください。まず、本日の次第が1枚。続いて、本日配布の資料ですが、資料番号1から3までの3点となります。まず、資料1は「府中市 市史編さん審議会委員名簿（令和4年7月）」となります。続きまして、資料2は「府中市 市史編さん体制（令和4年7月）」が1枚となります。最後に、資料3として「新 府中市史 刊行計画（令和4年7月）」となります。それでは、会長、よろしくをお願いいたします。

**会長** 本日の議題は、報告事項2件となっております。次第に従い、議題の1、報告事項（1）の「市史編さん事業の進捗状況について」、事務局、説明をお願いします。

## 1 報告事項

### (1) 市史編さん事業の進捗状況について

**事務局** 令和4年度の市史編さん事業の進捗状況について報告します。資料2と資料3をご覧ください。資料2の市史編さん体制において変更がありました点につきましては、先ほどご説明をさせていただいたとおりです。続いて、資料3になりますが、市史編さん事業の計画全体をご覧くださいとわかりますように、令和4年度は市史編さん事業の総仕上げの入口の段階にあたります。

まず刊行計画においては、資料収集、調査研究、分析の結果をまとめた資料編につきましては、昨年度の刊行を最終の目標としてまいりましたが、現在の段階では、『近世資料編』の中巻と下巻の発行が完了しておりません。

『近世資料編』の中巻と下巻については、昨年度中に印刷製本を完了して刊行する予定で、専門部会委員と担当職員の市史編さん専門員にも全力で取り組んでいただいていたのですが、原稿の執筆と校正作業に大幅な遅れが生じてしまったため、発行年度を見直しして、今年度の発行に計画変更いたしました。現在のところ、原稿校正の最終段階に差し掛かっておりますので、まもなく印刷製本に着手できる見込みです。

遅延している刊行物については、できるだけ早急に発行すべく努めてまいりたいと考えております。また完成次第、頒布に先行して各方面に配布をいたしますので、併せて審議会委員の皆様にもお送りいたします。

続いて通史編になりますが、今年度中に原始古代編、中世編、近現代編の前半の計3巻を発行する予定で、来年度中に近世、近現代の後半、自然、民俗、考古美術工芸の計5巻を発行する予定です。通史編は全8巻の予定です。

現在、今年度刊行分の通史編につきましては、専門部会委員による原稿の執筆が最終段階に差し掛かっており、専門部会内で委員相互の推敲をいただいております。また、通史編に掲載する図表や写真の準備も併せて制作しております。

また来年度刊行予定の通史編各巻の担当専門部会と担当職員の市史編さん専門員につきましても、それぞれの担当部会において章立てを行い、原稿の執筆や調査研究成果のとりまとめに取り組んでおり、どのような刊行物に仕上げていくかを活発に検討していただき始めています。来月8月には、各専門部会の部会長の委員にお集まりいただいて、それぞれの担当専門部会の取組状況、通史編の執筆要領の確認、先行する通史編の編集で浮かび上がってきた共通の課題などについて、意見と情報の交換をしていただきます。部会間で共通認識を深めて頂いて、『新府中市史』通史編を一体性のある刊行物としてまいりたいと考えております。

令和6年度は市制施行70周年の記念の年となります。平成26年から10年計画で取り組んでまいりました市史編さん事業の完了は、『府中市史編さん方針』でもうたってまいりましたが、この年度を最終目標としております。令和6

年度までの期間での完了は、市が正式に掲げる目標として『第7次府中市総合計画 令和4年度－令和11年度』にも明記されておりますので、困難を乗り越えて、予定通り計画的に進めなければなりません。また現在の市史編さん体制も、この年度までの設置を視野に入れた体制として計画されております。

令和6年度に行われる記念式典やイベントの機会において、本市としては2回目となる、このたびの本格的な市史編さん事業について、最終的な成果全体を市民にご報告させていただくとともに、市史刊行物全体に及ぶ索引、年表、地図、正誤表などを作成し、ホームページ上や印刷物で広く周知して、事業を完遂させたいと考えております。

会長 ありがとうございます。説明が終わりました。何かご質問はございますか。若干遅れているものにつきましては、できるだけ早く進めていただきたいと思います。なお、ただ今お話のありました、通史編の内容その他の問題については、8月26日に編集委員会を開催し、その席上で各部会長の意見を聞きたいと思っておりますので申し添えます。

それでは、次に、報告事項(2)の「令和4年度事業と市史刊行物の発行予定について」、事務局、説明をお願いします。

## (2) 令和4年度事業と市史刊行物の発行予定について

**事務局** 今年度発行を予定し、編集を進めているのは、先ほどもご説明しましたが、資料編は『近世資料編』の中巻と下巻の2巻、通史編は『原始古代通史編』、『中世通史編』、『近現代通史編一上』の3巻、それに専門部会委員、協力員、主管課職員の寄稿による『新府中市史研究』の第5号です。以上6種類の刊行物を令和4年度中に発行する予定です。このほか『市史編さんだより』については、第12号と第13号を発行する予定です。

この数年間、世の中の動向と同様に、コロナ禍のために思うように調査や会議の開催ができず、市史刊行物の編集発行にもさまざまな遅れが生じていることは否めませんが、計画に沿った進行を目標として、専門部会の委員の皆様には最大のご尽力をいただいていること、編さん担当職員も一丸となって取組んでおりますことを、改めてご報告させていただきます。

なお、これまでの市史刊行物の頒布状況ですが、現在、市史編さん事務室、市民相談室、市政情報センター、郷土の森博物館、観光情報センターの市内の5か所の窓口で頒布を行っており、昨年度は既刊全種類の合計で308冊の販売実績がございました。その前年の令和2年度は268冊でしたので、年間約300冊程度が窓口・通信あわせて販売されていることとなります。本来であれば、もっと多くの頒布数になるかと思いますが、市のイベントや多摩郷土誌フェアの開催見合わせなど、周知や直接販売の機会が失われていることが、刊行物の頒布にもあたっても大きな障害となり、頒布数に影響しているようです。

事業の最後に市史講演会の開催についてですが、こちらにもコロナ禍の影響を受けて、この2年間ほどはやむを得ず中止してまいりました。今年度も直接の開催は未定ですが、この9月には、市の芸術文化祭の一環として、府中市史談会の主催による講演会が市民活動センタープラッツを会場として計画されております。講師として、市史編さんの原始古代専門部会のC委員と、中世専門部会のD部会長がお話しをされる貴重な機会ですので、市史編さん担当としても、ぜひご協力させていただきたいと考えております。

**会長** 説明が終わりました。ご意見がございましたら、よろしくお願ひいたします。

**E委員** 刊行計画そのものではないのですが、頒布状況についてです。本来は経費がかかっているのですから、できるだけ販売をするという認識であると思います。ただ、「この場所で見ることができる」というPRも必要と思います。そこで伺いたいののですが、どこで見られるのか。自分自身がわかっていません。事務局に來れば見せていただけるのでしょうか、お願いしづらいと思います。販売しているのですから。値段が書いてあるのに「とりあえず見せてください」とは言いにくいでしょう。例えば、文化センターには置いているのでしょうか。一番思いつくのは文化センターです。気軽に寄ることができます。コロナ禍で閲覧も難しい状況が続きますが、どういう場所で閲覧できるのか教えていただきたいです。それから、編さんだよりや広報ふちゅうで、閲覧できる旨をPRしたらどうかと思います。

**会長** ありがとうございます。刊行物については市史編さんが始まった頃からPRしていると思いますが、重ねて、市民の皆さんに、よりいっそう手に取って見ていただけるように、何らかの方法で場所の周知をしていただきたいというご意見かと思ひます。事務局いかがですか。

**事務局** 回答いたします。まず、図書館では中央図書館、地区図書館（文化センター）、全ての図書館に所蔵があります。また、市のホームページで刊行物の種類と概要についてご紹介させていただいております。それをご覧になった全国の方から、問い合わせや注文があります。その他に、市内の小中学校、高校、大学には、学校の教材として使っていただく目的がありますので、お送りしています。また、近隣市の図書館や博物館、文化財担当にもお送りしていますので、そういった場所でご覧いただくこともできます。

まだまだPRが足りないところではございますが、今後も周知を継続して、お届けをしていきたいと考えております。最近、市外の大学図書館からもお問い合わせをいただくことがございます。ご希望があれば必ずお送りするようにし

ています。レポートなどで学生さんをご利用になるケースもあるようです。

**事務局** 一点補足させていただきます。刊行物の頒布場所については、ホームページ等で周知させていただいておりますが、基本的には、頒布場所には見本品を置いていただいております。確かに中身を見ないで購入することは難しいですから、委員さんのおっしゃることもごもっともです。市史編さん室でも、訪ねてきた方が見本をご覧になって、購入する方もいらっしゃいますし、見るだけ見て、ちょっと考えます、という方もいらっしゃいます。見本品を手にとって見ていただくことは可能な状態になっておりますが、ただ、その旨を記載してはおりませんので、そのあたりを周知したいと思います。

**E委員** 私も市民相談室には関わっておりますので、空き時間に確認してみます。

**事務局** 本庁では、3階の情報公開室にも置かせていただいておりますので、最新の状況を確認しておきます。

**F委員** ぜひ、目立つようにPRをお願いします。

**会長** 関心のある市民の方には、十分見ていただける場を設定しておりますが、より一層努力していただければと思います。

**G委員** 事務局からの説明でよくわかりましたが、例えば図書館などでは、所蔵していると基本的には棚に入った状態ですよね。図書館も新着の本は展示コーナーがあったりするので、中央図書館で府中市史を展示していただくと、中身がよくわかる状態で市民の方に見ていただけるのではないかと。あるいは販売中のポスター等を掲示するなど、図書館から発信していただくと、よりお買い求めいただけるのではないかと思います。

**F委員** 友好都市ウィーンの特設コーナーと同じように、市史編さんも目立つように置いていただけるといいかなと思います。

**会長** 市史編さんの立場で、どのような方法で市史をPRするかというのは、それぞれの部局との調整・相談もあると思います。せっかく作った市史ですので、多くの方に見ていただきたいと思います。こういう時節柄ですので、各自治体でも困っているようです。府中市でも努力していただくということで、よろしくお願いします。

**F委員** 刊行計画についてですが、皆さん一所懸命やっただいただいていると思

います。実は私も執筆委員であるのですが、このコロナ禍で、皆さんにお会いできない、つまり調査ができない状況です。特に市民の皆さんが集団でお囃子をやるとか、子どもたちに話を聞きたいと思っても難しいので、苦勞しています。お祭りの担当者も通常で調査を実施できないので、刊行計画は厳守とおっしゃるけれども、本当に困っています。こういう状態で刊行されることになるのだということをご理解いただきたい。通常ではない、特別な状況下での調査報告になると思います。

**会長** ただ今のお話ですが、全くその通りでございまして、膨大な材料を検討していますし、外部との対応が大変な状況でございます。ただ今のご発言等は、8月に開催される予定の、市史編集委員会の席上でも議論されると思います。それでは、その他に移りたいと思います。事務局どうですか。

## 2 その他

**事務局** 次回日程についてですが、市史刊行物の発行状況や市の日程を調整し、来年2月ごろに開催したいと考えております。それまでの間に、刊行物は発行予定がございしますが、出来上がり次第随時お手元にお届け出来たらと考えております。以上でございます。

**会長** それでは、次回は2月ごろ開催ということで、その間に出来上がった刊行物は委員の皆さまに都度お送りするということです。よろしく申し上げます。その他ございますか。

**事務局** F委員から、公開講座についてご説明をお願いします。

**G委員** ご報告させていただきます。「第58回府中市民芸術文化祭」ということで、毎年秋にいろいろな団体の催し物がありますが、その一環で、府中市史談会としては公開講座を予定しております。主催は府中市と府中市芸術文化協会、共催で府中文化振興財団、主管は府中市史談会ということです。公開講座自体はコロナで3年ほど中止になっておりまして、Cさんのお話は当初からお願いしていたものが実現したということと、D先生のお話は、今ちょうどNHKで大河ドラマをやっておりまして、そのあたりの内容になるかと思っております。もしよろしければお聞きになっていただけたらありがたいなと思っております。以上でございます。

**会長** それでは、以上をもちまして閉会といたします。ありがとうございました。